

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社ウィルR&D木津工場新築	階数	地上2F
建設地	京都府木津川市城山台2丁目2番3	構造	S造
用途地域	準工業地域, 法22条地域	平均居住人員	25 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2019年4月1日
敷地面積	7,224 m <sup>2</sup>	作成者	林 育造
建築面積	2,761 m <sup>2</sup>	確認日	2019年4月1日
延床面積	3,645 m <sup>2</sup>	確認者	林 育造



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100%  
②建築物の取組み: 87%  
③上記+②以外の: 87%  
④上記+: 87%

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

音環境	N.A.
温熱環境	N.A.
光・視環境	3.0
空気質環境	3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

機能性	2.8
耐用性	2.7
対応性	3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

生物環境	3.0
まちなみ	4.0
地域性	2.0

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 2.7**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

建物外皮の	1.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.6
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

水資源	3.0
非再生材料の	2.4
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.6

地球温暖化	3.6
地域環境	2.4
周辺環境	2.1

3 設計上の配慮事項		その他
<p><b>総合</b></p> <p>本建物は、システム建築を採用することにより建物を軽量化し、かつ無柱空間を確保しています。工場作業において生産ラインの変更に対応できるフレキシブルな建物としています。また、屋根材・外壁材は日射反射率の高い金属系(ガルバリウム鋼板)を採用し、ヒートアイランド現象を抑制することに努めます。</p>		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
事務室関係は窓による有効採光を確保した。	工場部分は、将来の運用において変更が生じても柔軟に対応できるように階高や空間にゆとりをもたせた計画とし、電気・設備配管については天井裏スペースを高く取り、その部分を配管スペースとすることで更新時のランニングコストを削減する。	敷地内緑地を30%以上確保し、対応面積を全て樹種として温暖化に配慮した。
	外壁材・屋根材共、容易にリサイクル可能な建材を選定した。	駐車場・駐輪場を多めに計画し、交通負荷抑制を抑制します。工場作業により発生する廃棄物は、分別・減量に努めます。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される